



南アルプス邑野鳥公園

# かけはし

第195号

2025年1月発行

発行：峡南教育事務所  
教育支援スタッフ（地域教育担当）

南巨摩郡富士川町鯉沢771-2  
TEL:0556-22-8154  
FAX:0556-22-8144  
HPでも御覧になれます。  
<https://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>



南巨摩合同庁舎(合庁)

## 目次:

峡南地域『異校種連携・子育て学習会』開催	1
ことぶき勸学院だより 教育懇談会(峡南地区) 南巨摩合同庁舎 避難訓練 市川三郷町「子育て支援フェスティバル」	2
身延町 あげぼの大豆 富士川町 ゆず 市川三郷町 大塚にんじん 南部町 内船歌舞伎	3
青洲高校 身延高校 身延山高校	4



## 早川町 上流圏ライブラリー

上流圏ライブラリーは、早川南中学校の跡地2Fにあります。昨年からは管理者が不在のため、通常時は鍵がかけられており、自由に出入りができません。隣りの上流圏文化研究所を訪ねて鍵を開けていただき、中へ入ることができます。少し寂しい気もしますが、施設は綺麗に整っていて山での暮らしに関する本や早川町に関する資料が揃っております。時間を見つけて、ぜひ、立ち寄って見てください。

## 令和六年度 峡南地域 異校種連携・子育て学習会

### 講演 『地域で育む乳幼児期からの育ち・学び』

～架け橋期～乳幼児期の育ちと学び～地域や家庭でできること～

山梨大学准教授・博士 大野歩氏

令和六年度峡南地域異校種連携・子育て学習会が、十一月十九日(火)に市川三郷町生涯学習センターの多目的ホールで開催されました。講師の山梨大学准教授・博士の大野歩さんは、保育学・幼児教育学を専門とし、山梨県内の保幼小に関わる様々な会議の役員やスーパーバイザーもしております。講演では、①『架け橋期・架け橋プログラム』の意義、②『保幼小連携と学びの連続性への理解』③『家庭・園・学校でできること』について、お話し頂きました。

●全国的な調査で小学校における不登校の数が増加傾向にあること。

●「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、保幼小の連携が必要であること。●保幼小の関係者が協働して、学校生活や教育・カリキュラムをつなげること。などの課題があげられました。これまでは、小学校への入学準備として、保育園や幼稚園で行われているアプローチカリキュラムと小学校で入学から学校生活に慣れるまでの数週間、行われているスタートカリキュラムで対応してきました。ですが、今回の講演での「架け橋プログラム」は、五歳から小学校一年生の間の二年間のカリキュラムを保幼小で連携して作成

し、実践して子どもたちを育てていくというものです。その中で、「安心と挑戦の循環」ほめるから認める、プロセスの言語化、教示的無関心」など幼児教育における最新の情報を学ぶことができました。昭和から平成・令和と大きく社会が変化しています。子どもを家族の中で丁寧に育てるようにはなりましたが、人や社会との関わりが減ってきているように思います。また保護者も地域とのつながりが希薄になってきています。その中で幼稚園、保育園・所、学校の果たす役割がこれまで以上に重要になっていくと考えられます。教育関係者、幼児教育や子育て支援に関わる方々、地域の方々が一緒に協力をして、この問題に対応していかねばなりません。峡南



# ことぶき勸学院だより

〜運動・芸術・交通安全〜

十一月一日(金)に富士川町まほらの湯となりの釜無川浄化センター長沢グラウンドで、一・二年生合同のグラウンドゴルフ大会を行いました。日々の活動は学年ごとに行っているので相互の交流や親睦、健康管理、体力増進の機会として、とても有意義な行事となりました。参加者は、五名ずつの七班に分かれ、八ホールを二回行い、チ



ームと個人で競いました。ナイスショットやホールインワゴンが出ると歓声が上ががり、とても盛り上がりつつありました。初めてプレーした一年生もまたやりたいと笑顔で話をしていました。

【二年生】十一月二十六日(火)に山梨県立美術館の見学をしました。企画展では、まるで本物と見間違えるほどに精巧に彫られた彫刻を見て感嘆し、様々な材料で作られた作品に見とれていました。常設のミレー展では、ボランティアガイドさんの説明を聞き、質問等をしてながら熱心に鑑賞して



いました。時間が許す限り、各々でお気に入りの所を見つけて芸術に親しんでおり充実した講座となりました。

【一年生】十二月六日(金)に南巨摩合同庁舎で県民生活安全課交通安全担当の方から山梨県の交通事情と高齢者の事故、運転中の死角などについて講義を聴きました。その後、班に分かれて、運転適正の診断やVRゴーグル等を使用しての日常生活における事故や歩行体験などで注意すべきことを学びました。勸学院の皆さんも改めて、車の運転や日々の交通安全を意識したようでした。



講座以外にも二年生は課題研究として防災についてまとめて、発表に向けての準備をしています。一年生は、クラブ活動として富士川町の「塩の華」で富士川舟運の歴史を学びました。



## 学生募集

来年度のことぶき勸学院の学生募集が二月三日から始まり、各町教育委員会や合庁で案内を配布しておりますので、お問い合わせください。

## 教育懇談会

in 峡南地域



十一月十一日(月)十八時より西八代合同庁舎において令和六年度教育懇談会が開催されました。教育懇談会は、今後の教育施策の推進に役立てることを目的に、教育委員が教育行政に係る様々な課題等について県民の意見、要望等を直接聴取するものです。



本年度は峡南教育事務所管内の地域の皆様を対象に行われ、高校生、大学生から教育関係者、PTAなど四〇名あまりが5グループに分かれて「子どもたちのウエルビーイングの実現」をテーマに意見交換を行いました。各グループとも非常に盛り上がり、とても充実した会となりました。今回の懇談会で出された意見が今後の教育施策に活かせることを期待します。

## 南巨摩合同庁舎 避難訓練

十一月二十一日(木)に敷地内で防災避難訓練を行いました。これから冬季になり乾燥して火災が起こりやすくなります。そこで水消火器や消火栓を使用しての放水訓練も行いました。さらに震災が起きたときに、南巨摩合同庁舎はこの地域の避難所となります。防災倉庫の中の毛布・非常食等を確認し、発電機や投光器の説明を受け、実際に操作手順の確認をしました。災害はいつ起こるかわかりませんので、平常時の準備が大切です。



を地域全体で支援するこのような取り組みは本当に素晴らしいと思います。

## 子育て支援フェスティバル

(市川三郷町)

十一月九日(土)に市川三郷町生涯学習センターにおいて「子育て支援フェスティバル」が行われました。市川三郷町では、子育て支援活動を行っている十七団体で「市川三郷町子育て・子育て支援ネットワーク連絡会」を構成し、保護者、地域の方、役場の子育て支援課と協働して様々な活動を展開しています。今回のフェスティバルには、町内の中学校の生徒がボランティアとして、たくさん参加して、乳幼児や小さな子どもたちと一緒に遊んでくれました。会場には多くの親子連れが来場し、各団体のブースをまわり、様々な遊びを楽しんでいました。駐車場では子育て応援マルシェとして地元のお店やキッチンカーなどが食べ物やグッズを販売していました。赤ちゃんや幼児



### 峡南地区 特産品収穫体験

#### あけぼの大豆



十月十六日(水)身延町の下山立正保育園の園庭において園児があけぼの大豆の収穫を行いました。以前は近所の畑に行つて収穫をしていましたが、コロナ禍を経て、あけぼの大豆センターから送られてきた種を園で育て、収穫することになりました。園庭の花壇には深緑色に成長した丸く大きなあけぼの大豆がたくさん実っていました。園児達は一つ一つ丁寧にむしり取つて袋に入れていました。袋いっぱい枝豆を得た豆をお家でおいしく食べたと思います。町内の静川・常葉保育園所でも十五日に、あけぼの大豆の収穫体験を行いました。

#### ゆず



十一月十四日(木)富士川町小室地区にある「日出づる里ゆず活性化組合」の農園で、増穂南小学校の三、四年生の児童五名が、ゆずの収穫体験を行いました。子どもたちは、はさみの使い方の説明を受けた後、実を傷つけないように丁寧に収穫していました。ゆずは約二十年かけて大きくなることを知り、時間と労力をかけて育つたんだと感じながら作業をしました。友達と協力して四百七十個もゆずを採り、収穫したゆずは、お風呂に入れたり、ゆずサイダーにしたりして楽しんだよう



採ったぞ〜

です。また十七日(日)には、小室山妙法寺境内で、毎年恒例のゆずの里まつりも開催され、増穂南小の児童も参加しました。

#### 大塚にんじん

十二月二日(月)、市川三郷町大塚地区みたまの湯の隣の畑において、町内の五つの保育所・園(三珠保育所・大塚保育所・高田保育園・ひまわり保育園 定林寺立正保育園)の年長児が一堂に会し、大塚にんじんの収穫体験を行いました。「大塚にんじん堀り」は、地元の農産物について知ってもらうこと「や」畑の土(赤褐色黒ボク土)に触れてもらうこと「を目的として、収穫期の恒例行事となっています。また収穫体験のみならず、地域の保育所、園の子どもたちとの交流も出来て大変有意義な活動です。数日前には大塚小学校でも行っています。



真上に引き抜く!

畑を管理している塩島さんから話を聞いた後、町おこし隊の堀内さんから長い大塚にんじんの取り方を教えていただきました。さらに五名の役場職員の手伝いを受けながら、園児達は一心不乱に収穫作業を行いました。園児の背丈より大きなにんじんを、みんなで協力をしてたくさん収穫することができました。収穫したにんじんは、園・所で分けられて、園児達がお家に持って帰るそうです。きっとその日は、各家庭で長いにんじんを見て収穫体験の話で盛り上がり、おいしい料理になったと思います。



このように地域の特産品を地元の方々の協力を得ながら、子どもたちが収穫をして、各家庭でおいしく頂く、子どもたちを通しての食育や地域との関わりを深める機会になると思います。これからもこのような取り組みが続いていくことを願います。

### 南部内船歌舞伎

十二月一日(日)の午後

南部町文化ホールにおいて、内船歌舞伎が行われました。南部町の内船歌舞伎は二〇〇年来の伝統を持つといわれる民俗芸能です。当日は、町内外から多くの観覧客が訪れ、会場は拍手と笑いに包まれました。地元の小学生による「子ども三番叟(さんばそう)」から始まり、南部警察署の皆さんによる白浪五人男、スペシャルゲスト「バレルヤ」さんによる津軽三味線の演奏、そして地元の方々の皆さんによる「弁天小僧 雪の下浜松屋の場」の上演とあつという間の三時間でした。三番叟では、かわいい小学校一、二年生の演技にたくさんのおひねりが飛び交いました。白浪五人男は一七四七年に獄門になった実在する盗賊をモデルにした五人を南部警察署員が見事に演じ、長い台詞を一人ずつ口上しました。警察署員が盗賊を演じ、地元の小中学生が捕り手を演じるという非常に面白い設定でした。最後は警察官として、会場の皆様に様々な犯罪に関する注意喚起をして終わりました。最後の浜松屋の場では、南部町内船歌舞伎保存会のメンバーや町議会議員や役場職員など町全体が協力して作り上げており、何ヶ月も前から練習をしていた成果が発揮されて、本物の役者のような演技で見ている人たちが物語に引き込まれておりました。地域主体のイベントとしてこれだけのものを行うことは本当に大変だと思いましたが、これからも是非続けていたいただきたいと思えました。

#### 三番叟



#### 浜松屋の場



#### 白浪五人男



